

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 6 号 (5 月 16 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区総体 東海に完敗で初戦敗退

5 月 10 日 (土)、11 日 (日) 山形市スポーツセンター (落合) で村山地区の地区総体が行われました。落合のグラウンドでは、これまで悲喜交々、さまざまなドラマが繰り広げられました。山東 9 年目の私にとって、「喜」の方で最も思い出深いのは、ナオヤの代 (コウタの代の 7 年上) の県新人準決勝で、とある地区内強豪県立高校に 3 対 0 で完勝した試合。試合前、「ありがちな『チャレンジャーとして頑張る』謙虚な気持ちは不要、『自分たちの方が力は上』と胸を張って戦おう」と声を掛け合い、選手が堂々と戦い、勝利を手にしました。最近?では、ショウタの代 (コウタの代の 2 年上) の地区総体で、マンサクのスーパーシュートで地区内強豪市立高校を破り優勝した試合。あの代は、先輩方と比べ、なかなか勝ちに恵まれなかっただけに、勝利 (優勝!) が余計にうれしかった覚えがある。逆に、「悲」の方は、ナオヤの代の一つ下カオルの代の地区新人で、一回戦で敗れ、県新人に進めなかった試合が最大か。県新人に出場できなかった唯一の代となった試合が思い出深い。しかしその代は、県新人に出場できなかった悔しさを選手権や、翌春の県総体で張らしてくれました¹。

さて、そんな村山地区の聖地スポセンにて、10 日地区総体決勝トーナメント初戦東海大山形戦が行われました。東海大山形とは、リーグ戦で B チームと一緒にあり、結果は前々号でお伝えの通りですが、A チームは地区大会も県大会も優勝候補であり、Y2 の山東にとっては完全に格上。今年、練習試合でも Y1 のチームと対戦がなかっただけに、どれだけ差があるか確かめる意味でも楽しみな対戦となりました。

試合が始まると、やはり東海ペース。東海は、FW 二人で DF ライン裏と手前 (バイタルエリア) を使うのが非常にうまく、山東 DF がつかまえない。そして、山東の DF が大きくクリアしたボールも、高さあふれる DF がしっかり跳ね返すため、クリアもままならない。前線に起点ができない中、波状攻撃を受ける。特に厄介なのが、バイタルエリアで山東 DF のマークを背負ったまま東海 FW が行うポストプレー。東海 MF・DF がボールを正確に FW に当てて前線に加わるが、その動きに対して山東 MF がついていけない (遅れている) ため、DF ラインを追い越していく東海の選手をつかまえない (もちろん簡単にニアサイドでポストプレーを許す山東 DF の対応もまずい)。そんな、

¹ 県総体では、日大山形に準決勝で惜しくも敗れましたが、その後の 3 位決定戦で勝利し、東北選手権に出場しました。

押され気味の中、右サイド（山東ゴールから見て左）から正確に出されたクロスボールを、プルアウェイの動き²でファーサイドに回り込んだ東海 FW がヘディングシュート。GK ケッツン弾くものの、詰められて失点。内容でも結果でも、差をつけられる。

後半も、終始東海ペース。山東は特にゲームを落ち着かせたい MF の所で全く仕事をさせてもらえず、あらゆる場所で後手を踏んでいる。要は、どこにボールを動かしても 1 対 1 の勝負で東海に負けており、「安定した攻撃」というか、観ていて安心していられる攻撃が繰り出せない。**そもそも「パスをつなぐ」にしても、平気でトラップでボールを浮かしたり、不用意にパスを浮かしたりしているため、つながりようがない。**また、**空中戦やアプローチにてダブって対応し、ダブったことが徒となるシーンが多い。**空中戦では、ダブらなければ、片方は空中戦の次の争い（セカンドボールの争い）に備えられるものの、ダブっているだけに、東海の選手にボールを拾われてしまっている。「地上戦」での東海ボール保持者に対するアプローチにても、どちらが 1st ディフェンダーか曖昧なまま、山東選手二人が何となく当たりに行き、そのギャップ（間）にパスを通され、一気に数的不利になるシーンが多い。**どちらにせよ、コミュニケーション、または、その前提としての「こうなったら俺が先に行く／お前が先に行くはずだ」という予測（状況判断）が欠けている。山東が Y1 のチームと当たる際には、こういう基本的な所でやるべきことをやらないと展開が良くなることを痛感させられる。**結局、ゴール前で！アプローチがダブリ、遅れた形から失点し、0 対 2 の完敗。スコア以上の実力差を感じる試合となりました。

これまで山東は「今期負けなし」。しかし、Y1 所属チームなどの格上と対戦してませんから、全く誇れたものではないとは思っておりました。これで一敗。「**負けなし**」の**重圧？から解き放たれ、さらなる高みを目指したい・・・無理矢理にでも地区総体をそう総括しておきましょう。**ともかくも、山東の何が足りないかをまざまざと見せつけられた、その点でレベルアップのポイントを教えてもらった東海戦は、本当に貴重なものでした。

応援ありがとうございました。今週末にも（そして来週末にも）、Y2B の戦いがあります。会場は鶴岡南高校と、遠くになりますが、応援よろしくお祈いします。

5 月 17 日（土）Y2B 第 3 節 酒田南戦 12：00 @ 鶴岡南 G

鶴岡南と言えば、**県総体の組み合わせで、山東の一回戦の相手となりました（詳細は山東サッカーOB会 HP 上でご覧下さい）。**進学校大会でも優勝したチームであり、何といても昨年の県新人 2 回戦で当たり、4 分 6 分と内容面で分が悪い試合をした相手。何とかスコアレス、PK 合戦の末勝利しましたが、「鶴南強し」という印象があります。何より技巧派揃いで、村山地区で見かけないタイプのチームです。初戦に全てをかけて戦います。そちらも応援よろしくお祈いします。

² ボールから横方向に（斜め方向に）遠ざかる動きのこと。この動きをされると、マークにつく選手はボールと相手選手を同時に視野に置くことが難しくなるため、苦しい状況に置かれることが多い（攻撃側からするとチャンスが生まれることが多い）。